

「人間の弱さ」についての話です。

フランスの数学者のパスカルが「人間は天使でもなく、獣でもない。しかし不幸なことは、人間は天使のように行動しようと思いつつ、獣のように行動する。」と言っています。天使は、天の神様のお使いとして、天界から人間の世界に降りてきた者のことで神に近い存在です。一方、獣は、知性や道徳心のない（つまり、物事をよく考えず、思いやりの心をもたない）とても残虐・残酷なものたえです。人間は天使でも獣でもないから、その中間にあたるのかもしれませんが。

もしも、生まれながら獣であれば、どんなことをしても恥ずかしいという気持ちは起こりません。嘘をつき、泥棒をし、人を殺しても、平気なはずで、しかし、人間は心の中では天使のように生きていたいと願っている一面もあります。でも、なかなかそうはできないことが多いのが現実です。毎日の生活は、天使の心に逆らう行いの繰り返しとも言えます。ですが、その心の食い違い（天使のように生きていたいのが現実はなかなかそうはできない）があるからこそ、人間は泣いたり笑ったりもします。

少年少女時代の過ちや間違いは許されることが多いものです。しかし、同じ過ちや間違いを繰り返すことは感心しません。嘘をつくとか、人の嫌がることをしたり言ったりするなどは、ちょっとした出来心でやることの方が多いと思います。

人間だからこそ、理想と現実（なりたい自分と今の自分）の違いに、心を痛めます。また、人間は多くの場面で、獣の行動が天使の心に勝ってやってしまった行いに対して、顔を真っ赤にして恥ずかしいと思う気持ちをもっています。

最後に、本校での具体的な事例について話しますので、皆さんもよく考え、注意してほしいと思います。少し前のことですが、部活動内でのトラブルが原因で、相手から刃物（カッターナイフ）を自分の身体に当てられたということがありました。本当に相手を傷つけようと思ったわけではないにしろ、された側の身になって考えると、とても怖かったですし、心が傷ついたことと思います。軽はずみな行動で人の身体や心を傷つけることは決してしてはいけません。授業や部活動などで刃物を扱うことがあると思いますが、常に「今は何をやる時間か。ここは何をする場所か。そして、『これは何に使うものか。』」を考えて行動してください。

皆さんは、中学時代にいろいろな行いをするとおもいます。そして、その結果は、自分の人生に全部跳ね返ってきます。私も皆さんも、頑張って「人間の弱さ」に打ち勝っていきましょう。